いのちの大切さを考える本

「つながる　いのち」

誕生と死を繰り返しながらいのちはつながってゆきます。
いのちをつなぐことの大切さを考える本を紹介します。
対象は幼児から小学生です。市内５つの図書館で借りられます。

東 村 山 市 立 図 書 館

おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん　長谷川義史／作　BL出版

おとうさん、おじいちゃん、ひいおじいちゃん、ひいひいおじいちゃん、ひいひいひいおじいちゃん・・・。ぼくの祖先をずーっとさかのぼっていくと、おさるさん？はるか大昔からぼくへとつながる人たちの様子をユーモアたっぷりに描きます。

へそのお　中川ひろたか／作　石井聖岳／絵　PHP研究所

お母さんが見せてくれたへそのおは「かいの　ほしたのみたい」でした。そのへそのおを見ながら想像すると、お母さんのおなかの中でつながっているところは、宇宙船につながれた宇宙飛行士みたい…。親子で生まれた時の話をして、いのちの大切さを考えてみませんか？

いただきまーす!　二宮由紀子／文　荒井良二／絵　解放出版社

目玉焼きをのせたおいしそうなハンバーグ。でも、お皿の上の目玉焼きがたまごを産んでいるニワトリだったら？ハンバーグが牛だったら？この一皿に、たくさんのいのちと人々の力がつまっていることが実感できます。

たねいっぱいわらったね　近藤薫美子／著　アリス館

「はじけたね」「こぼれたね」「ころがったね」野原のたくさんの種が、思い思いにはじけて、運ばれて芽を出し、花を咲かせます。自然界のパワーがあふれる絵本。種と出会う虫たちのつぶやきもじっくり読んでください。

ピリカ、おかあさんへの旅　越智典子／文　沢田としき／絵　福音館書店

北の海で暮らす鮭のピリカ。ある日、赤ちゃんの時の夢をみたピリカは、仲間たちとなつかしいお母さんの匂いのする故郷へと向かいます。長く厳しい旅の果て、卵を産み、やがて静かに死を迎えたピリカは、自然に還っていきます。いのちの終わりと新しいいのちの始まりを伝える絵本です。

おさるのかわ　いとうひろし／作・絵　講談社

山のふもとの大きな岩からたれた水は、川になってうねうね、うねうね流れていきます。川を流れる水のように、おさるはおさるとしてずっと続いていくのでしょうか。子どもの心にふと浮かんだ疑問を丁寧に追っていくお話です。

【平成２４年度　東村山市「いのちの教育」推進プラン関連事業　平成２５年１月発行】

©東村山市立図書館　無断転載加工禁止